

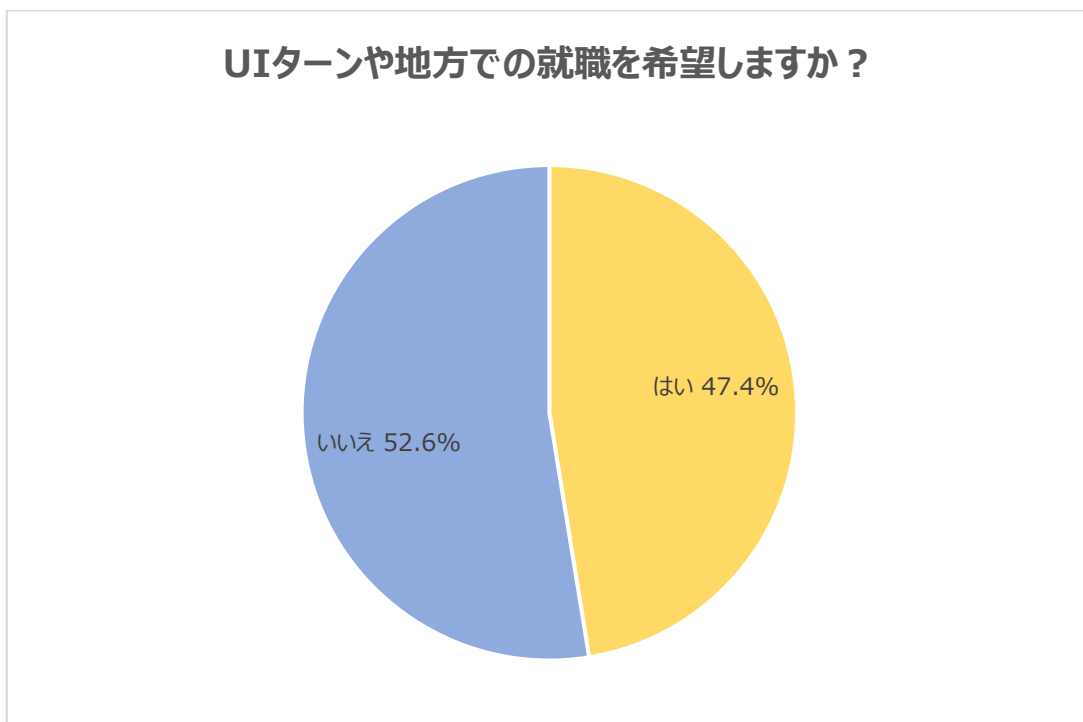
【2022年卒】「UIターンや地方での就職」を希望する学生が47.4%。2020年6月比25.6ポイント増。「家族の近くに住みたい」「地元のために、できることをしたい」の声。

株式会社学情は、2022年3月卒業（修了）予定の大学生・大学院生を対象に、就職活動に関するインターネットアンケートを実施。今回は、「UIターン・地方での就職」に関して調査しました。「UIターンや地方での就職」を希望する学生は、47.4%。2020年6月調査（2021年卒学生対象）と比較すると、25.6ポイント増加しました。コロナ禍で、「UIターンや地方での就職」を希望する学生が増加していることが分かります。「家族の近くに住みたい」「コロナ禍で観光客が減り、苦しい状況にある地元のために、できることをしたい」「必ずしも首都圏に住む必要はないと思った」などの声が寄せられました。「UIターンや地方での就職」する際の勤務地について、希望が最も多かったのは「出身の都道府県」69.3%、次いで「出身の都道府県に近く、求人の多い地域」36.3%が続きました。

【TOPICS】

- (1) 「UIターンや地方での就職」を希望する学生が47.4%。2020年6月比25.6ポイント増
- (2) UIターンや地方での就職を希望する理由は、「家族と一緒に暮らしたいと思うから」が最多
- (3) UIターンの勤務地選びで希望するのは、「出身の都道府県」が69.3%で最多

- (1) 「UIターンや地方での就職」を希望する学生が47.4%。2020年6月比25.6ポイント増

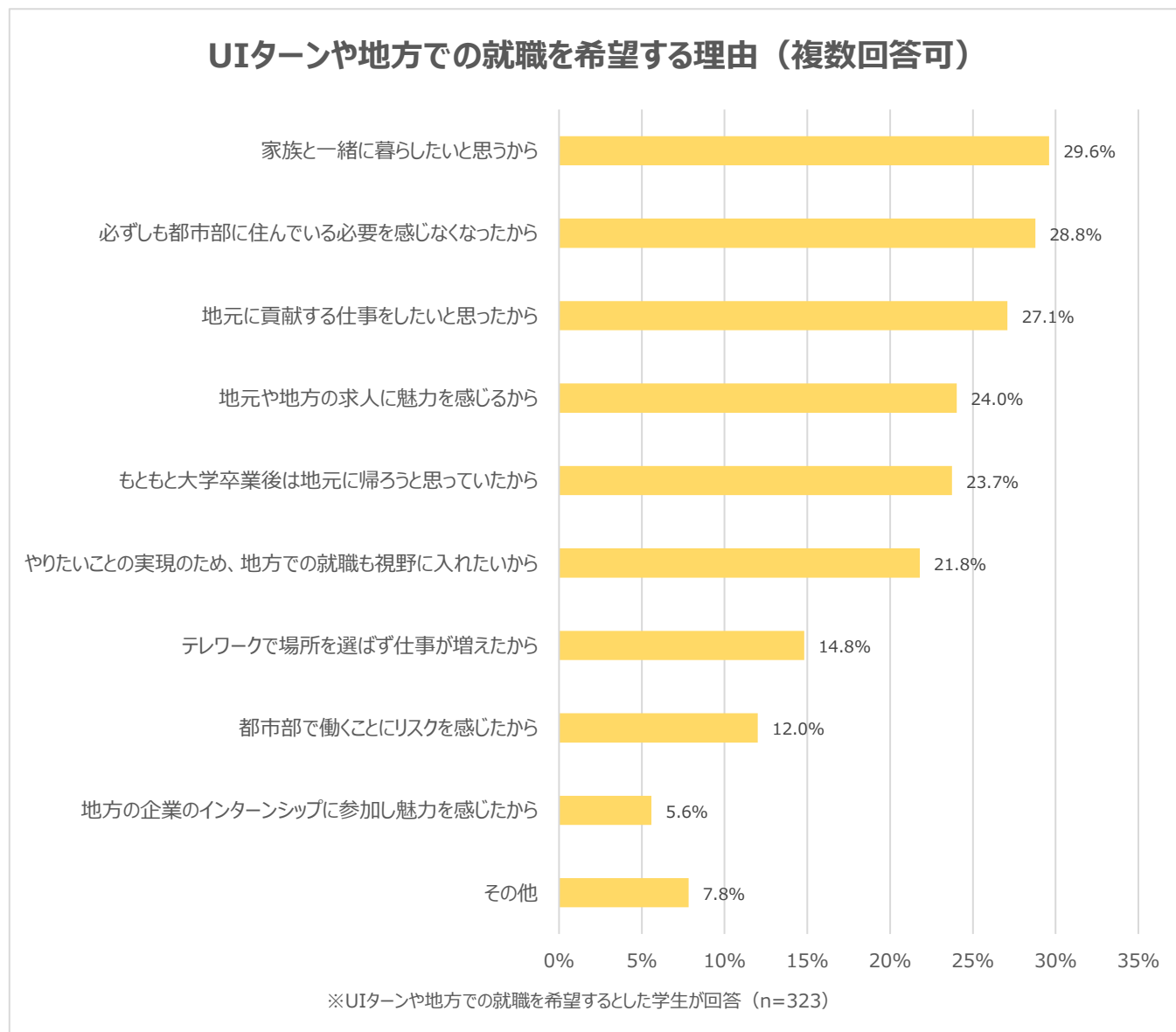


「UIターンや地方での就職」を希望する学生は、47.4%。2020年6月調査（2021年卒学生対象）と比較すると、25.6ポイント増加しました。コロナ禍で、「UIターンや地方での就職」を希望する学生が増加していることが分かります。「家族の近くに住みたい」「コロナ禍で観光客が減り、苦しい状況にある地元のために、できることをしたい」「必ずしも首都圏に住む必要はないと思った」などの声が寄せられました。

■学生の声

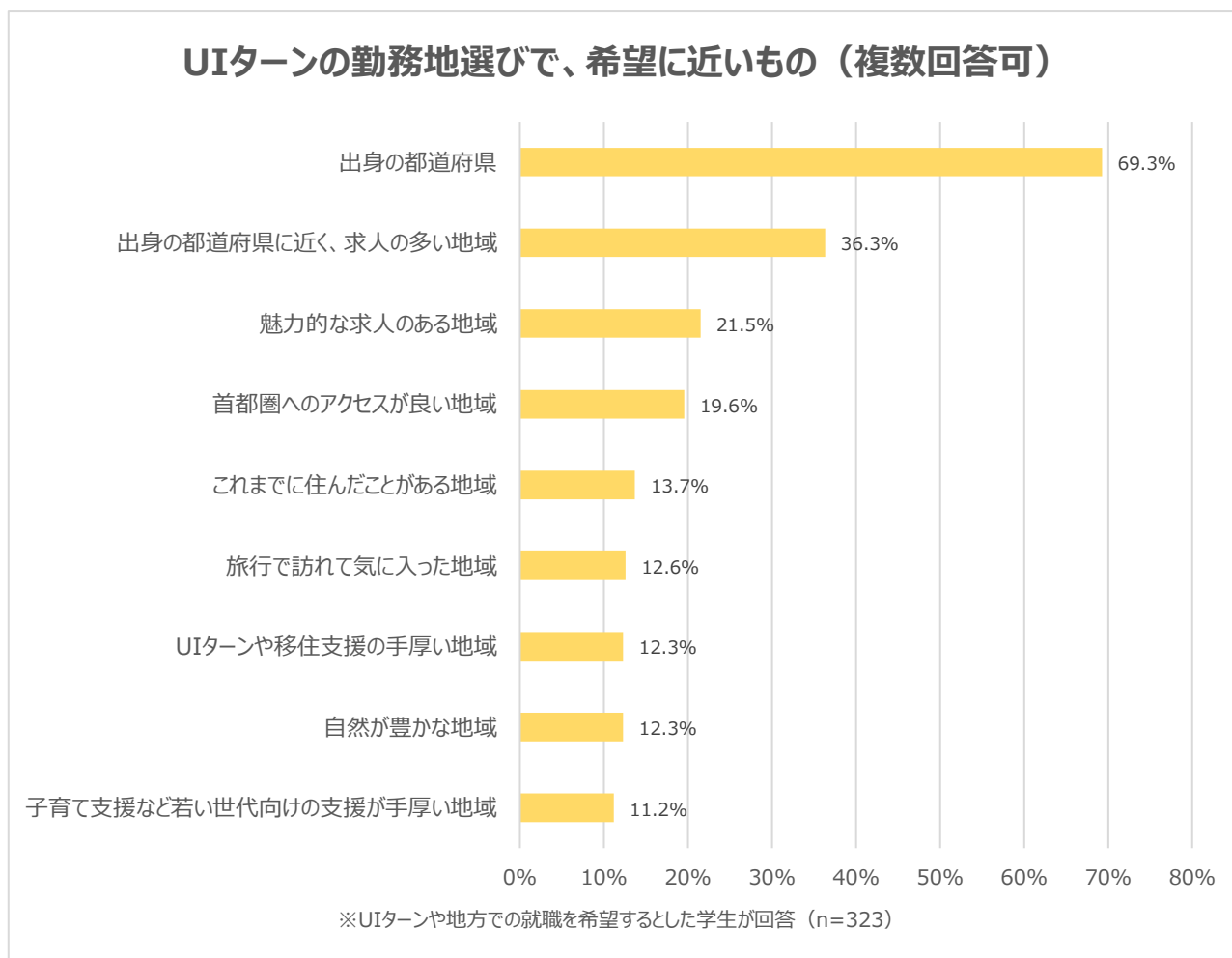
- ・首都圏に住んでいると地元に戻りにくいので、地元で就職したいと思うようになった
- ・気軽に地元に戻れないことで家族の大切さを改めて感じた。家族の近くに住みたいと思うようになった
- ・コロナ禍で観光客が減り、苦しい状況にある地元のために、できることをしたい
- ・テレワークをしたり、外出自粛を求められたりするようであれば、必ずしも首都圏に住む必要はないと思った
- ・自宅で過ごす時間が増え、地方の広い家に住むなど、自宅の環境を整えたいと思うようになった
- ・首都圏はよく緊急事態宣言が発出されて窮屈なので、地方のほうが過ごしやすかった
- ・人口の少ない地域のほうが、感染症のリスクも低いと思った

(2) UIターンや地方での就職を希望する理由は、「家族と一緒に暮らしたいと思うから」が最多



「UIターンや地方での就職」を希望する理由は、「家族と一緒に暮らしたいと思うから」が29.6%で最多。次いで、「必ずしも都市部に住んでいる必要を感じなくなったから」28.8%、「地元で貢献する仕事をしたいと思ったから」27.1%と続きます。

(3) UIターンの勤務地選びで希望するものは、「出身の都道府県」が69.3%で最多



「UIターンや地方での就職」する際の勤務地について、希望が最も多かったのは「出身の都道府県」69.3%でした。次いで、「出身の都道府県に近く、求人の多い地域」36.3%、「魅力的な求人のある地域」21.5%、「首都圏へのアクセスが良い地域」19.6%と続きます。

■調査概要

- ・調査対象：「あさがくナビ 2022（ダイレクトリクルーティングサイト会員数 No.1）」へのサイト来訪者
- ・調査方法：Web 上でのアンケート
- ・調査期間：2021年4月27日～2021年5月11日
- ・有効回答数：681名

東証一部上場

学情

